H30.6.30
勝田己代治

寄宿舎吉田寮の今後について

本問題についての奈倉代表の京大総長に対する要望はその趣旨において賛同する。

けれども代表が述べられている要望の根拠となる実態は今の吉田寮にはない。

すなわち代表が云われているかって学生として良識を貫いて姿は時代の変化という言い分の隠れ蓑の中で学生を含む若者たちの分を外れた放縦の中で崩れ去って久しい。これにはこの寄宿舎の恩恵を受けながら規律を守らなかった者たちの責任はもとより寄宿舎を治外法権的に扱い正当な管理権を放棄してきた大学当局の責任も問われなければならない。さらに寄宿舎の文化を形成したOBといえどもこの文化を後輩に受け継がせることなく放置し傍観してきた責めもある。

ではこれからをどうするか

代表の言われるあるべき姿の価値観はそれとしてまず大学の管理権を回復して現在試みられている多くの人々の知恵を結集して代表が表明する価値観を土台とする新しい時代にふさわしいハード、ソフト、ヒューマンな造りをすることである。

当然京大の寄宿舎である限りは利用の資格者は京大生でなければならない。この基準は厳格に適用するが現在住居している京大生以外の居住者に対しては原則論を通しつつも人道的な配慮が行わなければならない。

寄宿舎建物の改築　一試案

大学が持つ資源の総動員

1．鉄筋か木造かの選択検討

　提案としては近代的技術の粋を結集した木造とする。

2．大学資源の活用において農学部林業科　工学部建築科を中核とする。

　・農学部林業科　大学演習林内にある木材を伐採して製材する。

　　因みに大学で日本一の総面積を有する演習林は現在活用されることなく遊休資産の状態に置かれていると聞く。これを機会に学生の実習に応用すればよい。

　・　工学部建築科設計を担当する。

3．設計施工においては株式会社日建設計　ゼネコンはじめ優れた建設法人の協力を得る。

4．施工費は施工会社の寄付を要請する。

　指定を受けた会社はこれほど名誉なことはなく大いに会社のPRに貢献するものと思われる。

　これから浮く資金は当プロジェクト推進に伴い発生する経費に充当できる。

以上